

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	社会福祉援助技術現場実習(Fieldwork of Social Work)	授業コード	E021701
担当教員名	野中 義光, 鍋田 耕作, 河村 裕次		
配当学年	3	開講期	通年集中
必修・選択区分		単位数	4
履修上の注意または履修条件	「社会福祉援助技術演習Ⅱ」・「社会福祉援助技術現場実習指導」・「社会福祉援助技術現場実習」の3科目を必ず同時に履修することが条件となります。		
受講心得	実習計画書を綿密に作成し、有意義な実習とするよう心がける必要があります。将来の社会福祉の担い手としての期待に応えられるよう、真剣に取り組んでください。		
教科書	加藤幸雄・小椋喜一郎他編(2010)『相談援助実習 ソーシャルワークを学ぶ人のための実習テキスト』, 中央法規		
参考文献及び指定図書			
関連科目	相談援助の基盤と専門職, 相談援助の理論と方法, 高齢者福祉論, 障害者福祉論, 児童福祉論, 公的扶助論, 社会福祉援助技術現場実習指導, 社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ		

授業の目的	社会福祉援助技術現場実習では、利用者の理解とその家族への支援方法、施設・機関の機能と役割、職種と職務内容、援助の具体的方法、関連機関との連携、地域社会との関わりなどを学びます。そして、現場実習の達成課題の結びとして、福祉専門職者としての自らの適性を問う意味もあります。
授業の概要	社会福祉援助技術現場実習では、既に講義で学んだ社会福祉の知識、理論、技術を基にして社会福祉施設の実際を学びます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
社会福祉援助技術現場実習は原則として3年次の夏期休業中に180時間行います。また、実習地においては原則として大分県内で行います。	
授業の運営方法	(1)授業の形式 「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式 「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング
備考	授業形式は、実習施設での実習となります。

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	積極的に利用者や職員とコミュニケーションを図ることができる。
【知識・理解】	社会福祉援助技術現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解している。
【技能・表現・コミュニケーション】	社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応することができる。
【思考・判断・創造】	実習中の体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			25点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。			25点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			25点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。			25点	
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	
発表・その他(無形成果)	<p>実習態度、実習日誌及び実習評価票をもとに総合的に判断します。</p> <p>[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。</p> <p>[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。</p> <p>[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。</p> <p>[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。</p>